

国語 採点のポイント

【7 分割後期・二次】

問題番号 配点	正 答 例	採点のポイント
4 〔問5〕 配点	委員会活動で、「しつかりあいさつをしよう」とスローガンを決めたことがあります。このとき、声を出す、顔を向けるなど、捉え方が人によって異なるので、「しつかり」とはどういうことかを、皆で話し合いました。筆者は、「記号はつねに、諸経験の間の無数の変換を代表しているのではないか」と述べています。言葉の背景に個別の経験があると理解し、言葉で互いの意思を知ることを繰り返して、よりよく他者と関わりたいです。 (200字)	○テーマ「言葉を通じた他者とのやりとり」に即した自分の意見、主張が適切に書かれている。 ○本文中の筆者の主張を的確に捉え、その主張を踏まえて、文章が適切に書かれている。 ○自分の意見、主張の根拠となる具体的な体験や見聞について、適切に書かれている。

各学校において、採点のポイントを踏まえて『部分点の基準』を作成し、『部分点の基準』との点数』を定めること。

なお、受検者の実態等にに応じて、次の例のように詳細な基準を定めることができる。

- ・「○○について××が書かれている。」のように、具体的な内容を加えること。
- ・「○○と△△が書かれている。(3点)」「○○が書かれている。(2点)」「△△が書かれている。(1点)」のように、段階を設け、段階ごとの点数を設定すること。
- ・「誤字が一つ以上ある。(1点減点)」のように、部分点の基準を加えること。